

文部科学省委託事業

総合的な教師力向上のための調査研究事業報告書

「管理職を養成する仕組みの確立」に関する調査研究
成果報告書

平成28年3月

山口県教育委員会

目 次

I	管理職養成に係る山口県の現状と課題	
1	山口県公立学校教員年齢構成	2
2	管理職に求められる力	2
II	研究テーマ	4
III	研究の実際	
1	スクールリーダー研修講座の実践研究	
(1)	研修プログラムの開発・改善	4
(2)	研修講座実施状況	6
	研修講座Ⅰ	9
	研修講座Ⅱ	11
	研修講座Ⅲ	12
	研修講座Ⅳ	14
	ニューリーダー研修講座	16
(3)	研修講座の評価	17
(4)	研修講座についての考察	21
2	スクールリーダー育成に向けた大学との連携の在り方の研究	
(1)	スクールリーダー研修講座のプログラム作成・運営における連携	22
(2)	山口県教員養成等検討協議会	24
(3)	事業成果と課題	25
3	やまぐち総合教育支援センターの研修を活用したスクールリーダー育成の在り方の研究	
(1)	スクールリーダー育成に向けた「組織力向上研修」の新設	25
(2)	やまぐち総合教育支援センター研修講座の活用	27
(3)	事業成果と課題	27

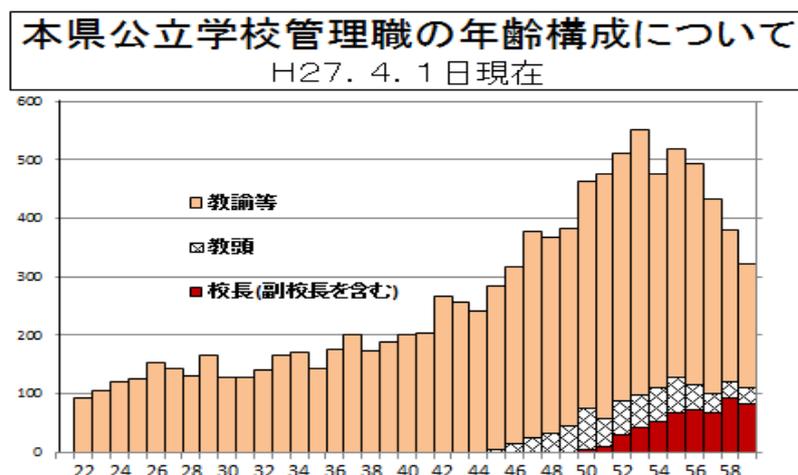
本報告書は、文部科学省の初等中等教育等振興事業委託費による委託事業として、山口県教育委員会が実施した平成27年度「総合的な教師力向上のための調査研究事業」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

I 管理職養成に係る山口県の現状と課題

1 山口県公立学校教員年齢構成

本県の教職員の年齢構成は、平成27年4月現在で50歳以上の教職員の割合が約45%を占めており、学校経営の中核を担っているベテラン教員が、今後、大量に退職していくことから、ベテラン教員の有する学校教育推進の知識・技能を若手や中堅層に継承するとともに、ベテラン層に代わる次代のスクールリーダーを育成していくことは喫緊の課題となっている。



2 管理職に求められる力

少子高齢化の進行、グローバル化・高度情報化の進展など、教育を取り巻く環境は急速に変化する中、学校には、学力向上はもとより、いじめや不登校への対応、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、ICTの活用など、複雑化・多様化する教育課題に的確に対応するとともに、学校と家庭・地域が連携・協働することで子どもたちの学びや育ちを支援する取組がより一層求められている。

そのため、確固たる教育理念に基づく学校運営に係る明確なビジョンを有し、人間的な魅力や力強いリーダーシップにより活力ある学校づくりを進めるとともに、教職員の資質能力の向上を図るための指導力、学校組織を効率的に機能させる優れたマネジメント力を発揮できる管理職を育成していくことがますます重要となってきている。

本県では、本県教育を担う人材の育成に向けた取組の方針を示した「教職員人材育成基本方針」を平成24年3月に策定し、その中でキャリアステージ(教職経験)ごとに求められる教職員の役割や資質能力を示している。管理職については、役割を「経営者」、求められる資質能力を「マネジメント能力」としている。学校、市町教育委員会、県教育委員会は、この「教職員人材育成基本方針」を共有し、連携して、本県教育を担う人材を育成するための取組を積極的に推進している。

キャリアステージごとの役割と求められる資質能力

教員は、一般的に、若手【自立・向上期】、中堅【充実期】、ベテラン【発展期】など、キャリアステージの変化に伴い、学校における立場や職務、役割も変わることから、これに伴って、求められる資質能力も加わっていきます。

■ 若手【自立・向上期】

○ 役割

活力を与える役割

○ 求められる資質能力

実践的指導力

■ 若手の教員には、教員としての自己を確立することが求められるとともに、年齢的にも児童生徒に最も近い存在であることから、教職員の中において、積極的に児童生徒と関わりながら教育活動を行うことにより、学校全体に活力を与える役割が期待されます。

このため、学習指導や生徒指導等を行う際に必要な基礎的な知識や技能を基盤とした実践的指導力や教育に対する使命感や情熱などが求められるとともに、児童生徒とのふれあいや保護者・地域との関わり等を通して、教育実践や経験を積み重ねていくことも必要です。

■ 中堅【充実期】

○ 役割

ミドルリーダー

○ 求められる資質能力

高い専門性

■ 中堅の教員には、分掌主任の補佐役等として積極的に学校運営に参画するなど、ミドルリーダーとして行動することが求められるとともに、若手の教員から教育活動等に関する相談を受けたり、指導・助言を積極的に行ったりするなど、人材育成の役割を担うことが期待されます。

このため、自分が専門とする領域や得意分野の専門性を高めていくとともに、専門性を生かして、学校運営の一翼を担いながら行動することが求められます。

■ ベテラン【発展期】

○ 役割

様々な校務等の責任者

○ 求められる資質能力

企画力・調整力

■ ベテランの教員には、学校における様々な校務における主任等の責任者としての役割が求められるとともに、日常の業務を通して若手や中堅の教員の人材育成にも積極的に取り組むことが期待されます。

このため、学校のめざす方向を理解し、学校運営に積極的に参画するとともに、様々な校務等における企画力・調整力、更には、職務の遂行を通して、他の教員に適宜適切に助言するなどの指導力等が求められます。

■ 管理職

○ 役割

経営者

○ 求められる資質能力

マネジメント能力

□ 管理職は、学校運営全般において最終的な責任を有する立場にあり、確固たる教育理念に基づく学校運営に係る明確かつ具体的なビジョンをもつことが必要とされます。

このため、人間的な魅力や強いリーダーシップにより、学校教育目標の実現に積極的に取り組み、活力ある学校づくりを進めるとともに、所属教職員の資質能力の向上を図るための指導力、行政機関等との連絡調整能力や情報収集能力、危機管理能力等、学校マネジメントに関する幅広い資質能力が求められます。

【山口県教職員人材育成基本方針より】

Ⅱ 研究テーマ

【テーマ】

教職大学院と連携したスクールリーダー研修講座プログラムの開発・改善による継続的な管理職育成システムの確立

【研究内容】

1 スクールリーダー研修講座の実践研究

管理職に求められる資質能力の育成に向けた研修講座を立案・試行実施し、本県の実情を踏まえた効果的な研修受講者の募集や選抜の方法、研修内容、実施方法などについて検討検証する。

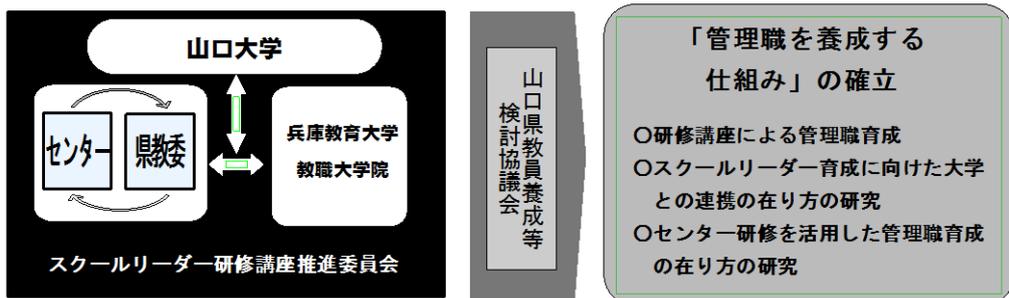
2 スクールリーダー育成に向けた大学との連携の在り方の研究

研修講座の計画立案段階から運営・実施に際し、山口大学等の参画を得て管理職候補者の育成について大学との連携の在り方を研究する。この取組を通して山口大学との連携を強化し、平成28年度の教職大学院の設置の取組を推進する。

3 やまぐち総合教育支援センターの研修を活用したスクールリーダー育成の在り方の研究

やまぐち総合教育支援センターで実施する管理職研修や中堅教員を対象とした研修を見直し、研修講座と一体となった、スクールリーダー育成の在り方を調査研究する。

【事業の推進イメージ図】



※山口県教員養成等検討協議会において研究の方向性を確認

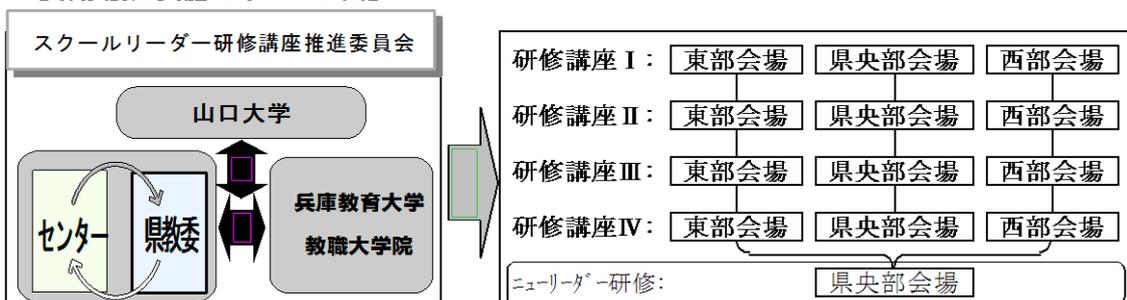
Ⅲ 研究の実際

■ 1 スクールリーダー研修講座の実践研究

(1) 研修プログラムの開発・改善

平成26年度の取組を踏まえ、研修プログラムの改善・充実を図った。プログラムの作成・講座の運営にあたっては山口大学・兵庫教育大学との連携を一層進めていった。

【研修講座実施のイメージ図】



■ 推進組織

「スクールリーダー研修講座推進委員会」	
検討内容	研修講座プログラムの作成・研修講座実施
構成	教職員課、やまぐち総合教育支援センター、山口大学、兵庫教育大学教職大学院、兵庫教育大学教職大学院派遣中の教員（教頭・教諭）・派遣OB

スクールリーダー推進委員会

日 時:平成27年6月10日(水)

場 所:山口県教育庁

出席者:山口大学4人 山口県教委:2人

協議事項:本事業の説明、研修講座の内容、スクールリーダー研修の実施運営方法等

〈主な意見〉

- ・昨年度実施できなかった「リスクマネジメント」及び「メンタルヘルス」の内容を実施するために、実施回数を増やす。「メンタルヘルス」のプログラムについては、県教育委員会と山口大学が共同で作成する。
- ・昨年度同様、単なる講義形式の講座だけでなく、実践的な演習を組み合わせることで実施することが有効である。
- ・昨年度同様、国や県の教育政策の理解から始めることが、参加者のスクールリーダーとしての意識を高める意味からも有効である。
- ・県教育委員会と山口大学・兵庫教育大学が連携して講座を運営していくこととする。
- ・この研修講座の内容は中堅教員には必要な内容であるため、教頭候補者選考試験受験者に加え、今後スクールリーダーとなる中堅教員も対象としていく(受講対象者枠の拡大)。

平成26年度の取組を踏まえ、今年度の計画を立案

■スクールリーダー研修講座の改善・拡充

○受講者定員の拡大

- ・400人→450人 ※県央部会場（山口大学）150人→200人
- ・今年度教頭候補者選考試験の受験予定者する者だけでなく、受講を希望する一般中堅教員の参加枠を拡大（特に女性管理職候補者へは、積極的な受講を呼びかけていく。）。
※対象を中堅層にも拡大し、管理職受験予定者との協同的な学びにより意欲の向上を図る。

○開設講座の拡充

- ・新たに「リスクマネジメント及びメンタルヘルスマネジメント研修」を追加
講座数 H26年度は4講座→H27年度は5講座

○運営面の改善

- ・要項発表及び講座開始時期の変更
要項発表 H26年度は8月→H27年度は5月
講座開始 H26年度は9月→H27年度は6月

※時期を早め、管理職選考試験の受験やスクールリーダーとしての活躍への意欲を高めるとともに、研修内容の学校現場への年度内還元を図る。

- ・兵庫教育大学教職大学院派遣教員の一層の活用

※県が継続的に教員を派遣している兵庫教育大学教職大学院との連携を一層進め、派遣中の教員や派遣OBが継続的に研修講座に参画する体制を構築する。

- ・県内3か所での実施の継続

※全県的な中堅教員の資質能力の向上を図るとともに、市町教育委員会の指導主事の積極的な参加を促し、市町教育委員会の本研修への参画を進める。

- ・研修講座の土曜日開催を継続

※受講者の自発的意志に基づく研修参加とするとともに、学校現場で教育活動への負担の軽減を図る。

(2) 研修講座実施状況

○実施要項

1 趣旨

スクールリーダーとしての基礎的な資質能力を養うとともに、その職務の重要性に関する理解を深め、本県のスクールリーダーとして学校を牽引する意欲を高める。

2 主催

山口県教育委員会

3 受講対象者

学校運営に関する資質能力を身に付けたいと考えている教職経験10年以上の教職員及び事務局等職員のうちの希望する者

4 受講人数 東部、県央部、西部の各会場合わせて450人程度

5 受講者の決定

受講者は県教育委員会が決定し、所属長または市町教育委員会等を通じて本人に通知する。

6 研修期日及び会場

	期 日	東部会場	県央部会場	西部会場
研修講座Ⅰ	6月20日(土)	周南総合庁舎	山口大学	菊川ふれあい会館
研修講座Ⅱ	9月26日(土)	周東勤労青少年ホーム	山口大学	菊川ふれあい会館
研修講座Ⅲ	10月24日(土)	柳井市文化福祉会館	山口大学	菊川ふれあい会館
研修講座Ⅳ	11月14日(土)	周南総合庁舎	山口大学	ときわ湖水ホール
ニューリーダー 研修講座	3月5日(土)	—	山口大学	—

7 研修内容

講義及び演習による研修

- ・スクールリーダーとして必要な資質能力の向上に関すること
- ・本県教育目標の達成に向け、スクールリーダーとして取り組むべきこと
- ・スクールリーダーとしての意欲の向上に関すること

8 サービスの取扱い及び旅費

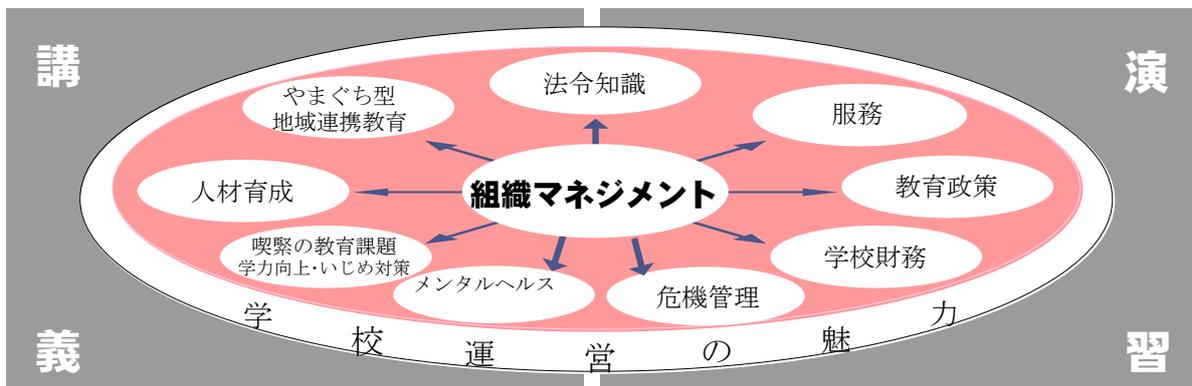
研修日のサービスは、自主的な研修として扱い、旅費は支給しない。

○スクールリーダー研修講座

	日時	講座内容	講師等
I	6月20日(土) 10:00~15:30	○ 開講式 ○ 本県の教育課題と施策 ○ やまぐち型地域連携教育	・ 県教委関係各課
II	9月26日(土) 10:00~16:30	○ 学校組織マネジメントの理論と実践	・ 兵庫教育大学教授等
III	10月24日(土) 10:00~16:30	○ 組織的な学校運営におけるスクールリーダーの役割と魅力 ○ 魅力ある学校運営	・ 特色ある学校づくり・学校経営を展開しているスクールリーダー 等
IV	11月14日(土) 10:00~16:30	○ 学校のリスクマネジメント ○ 学校のメンタルヘルスマネジメント ○ 閉講式	・ 県教委関係者 ・ 山口大学教授等

○ニューリーダー研修講座

	日時	講座内容	講師等
V	3月5日(土) 10:00~16:30	○ 管理職としての心構え ○ 管理職のリーダーシップ	・ 県教委 ・ 兵庫教育大学教授等



○ 受講申込者 ()は平成26年度

希望者校種	小学校	中学校	高等学校等	合計
人数	220人 (245人)	147人 (153人)	24人 (49人)	391人 (447人)

○ 参加人数(人)

	東部会場	県央部会場	西部会場	合計
研修講座I	113 (136)	130 (144)	95 (112)	338 (392)
研修講座II	122 (114)	137 (136)	92 (107)	351 (357)
研修講座III	101 (121)	121 (142)	90 (122)	312 (385)
研修講座IV	106 (-)	135 (-)	82 (-)	323 (-)
ニューリーダー 研修講座	山口大学会場 117			

○ 平成27年度 スクールリーダー研修講座概要

	東部会場	県中部会場	西部会場	
	学校運営に関する資質能力を身に付けたいと考えている教職経験10年以上の教職員 小学校籍220人(245人)、中学校籍147人(153人)、高等学校籍24人(49人) 計391人(447人)			()内は H26年度の人数
				上段: 講座内容 下段: 講師等
6月20日(土) 338人 (392人)	本県の教育課題と施策 県教育委員会 地域連携 熟議 県教育委員会 113人(136人)	本県の教育課題と施策 県教育委員会 地域連携 熟議 県教育委員会 130人(144人)	本県の教育課題と施策 県教育委員会 地域連携 熟議 県教育委員会 95人(112人)	山口県教育の特色 と喫緊の課題
9月26日(土) 351人 (357人)	学校組織マネジメント 学校ビジョンの展開演習 大野准教授(兵庫教育大学) 122人(114人)	学校組織マネジメント 学校のビジョン展開演習 笠沙教授(京都教育大学) 137人(136人)	学校組織マネジメント 学校のビジョン展開演習 浅野教授(兵庫教育大学) 92人(107人)	組織的な学校運営 学校を分析する視点
10月24日(土) 312人 (385人)	学校の現状分析 協議 ファシリテーター 大学院派遣者 魅力ある学校運営 現職校長 スクールリーダーの役割と魅力 昨年度スクールリーダー研修を受講した新任教頭 101人(121人)	学校の現状分析 協議 ファシリテーター 大学院派遣者 魅力ある学校運営 現職校長 スクールリーダーの役割と魅力 昨年度スクールリーダー研修を受講した新任教頭 121人(142人)	学校の現状分析 協議 ファシリテーター 大学院派遣者 魅力ある学校運営 現職校長 スクールリーダーの役割と魅力 昨年度スクールリーダー研修を受講した新任教頭 90人(122人)	スクールリーダーとして の役割の認識と意欲の高 揚
11月14日(土) 323人 今年度新規内容	学校のリスクマネジメント 県教育委員会 学校のメンタルヘルスマネジメント 県教育委員会 106人	学校のリスクマネジメント 県教育委員会 学校のメンタルヘルスマネジメント 静屋教授(山口大学) 135人	学校のリスクマネジメント 県教育委員会 学校のメンタルヘルスマネジメント 県教育委員会 82人	学校課題に適切に対 応するためのスキル アップ
ニューリーダー研修講座				
3月5日(土) 117人 名簿登載者等	新任管理職に期待すること 講話 県教育委員会 教育次長 管理職のリーダーシップ 講義・演習 日渡教授・小西教授(兵庫教育大学)他			管理職に必要な 資質能力

研修講座 I

1 目的

- (1) 本県の教育行政の概要及び特色、喫緊の課題に関する理解を深める。
- (2) 本県の地域と連携した教育の中核である「地域協育ネット」と「コミュニティ・スクール」の取組についての理解を深める。

2 期日 平成27年6月20日(土) 10:00~15:30

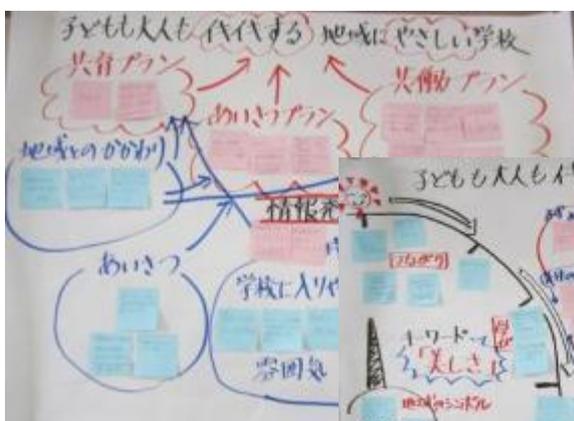
3 内容

(1) 講義：本県の教育課題と施策

- ① 本県の教育施策
- ② 人材育成
- ③ 特別支援教育
- ④ いじめ問題
- ⑤ 学校安全
- ⑥ 食育
- ⑦ 体力向上
- ⑧ 高校教育
- ⑨ 学校評価・網紀保持

(2) 講義演習：「学校・家庭・地域の連携・協働」(義務教育課、社会教育・文化財課)

- ① 講義：社会総がかりによる「地域教育力日本一」の取組の推進について
- ② 演習：熟議「子どもも大人もイキイキとする地域にやさしい学校とはどのような学校か。」



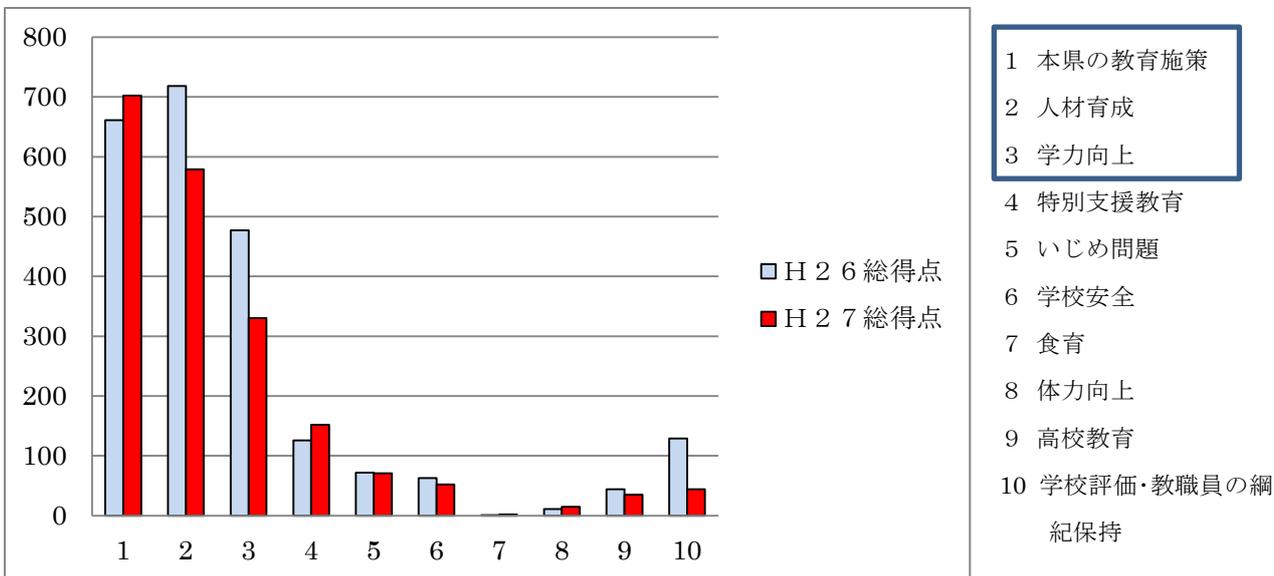
■研修講座アンケートから

「本県の教育課題と施策」の講義で、あなたにとって今後の職務に役に立つと感じたものはどれですか。

※役に立つと感じている項目を第1位から第3位まで選び回答したものをポイント化。

(第1位3ポイント、第2位2ポイント、第3位1ポイント)×(人数)

平成26年9月回答者数392人 平成27年6月回答者数338人



※ 項目1～3のポイントが高い。

■講義「本県の教育課題と施策について」で学んだこと

- ・これまで、学校の教育活動を自校の子どもの実態とのみ結びつけて考えていたが、講義を聞いて、県全体の児童生徒の実態やそれに基づいた施策等とのつながりも意識することが必要であると感じた。
- ・校内での立場を自覚し、組織として学校の教育課題に取り組めるように努力したい。

■講義・演習「地域と連携した教育」で学んだこと

- ・熟議を通して、コミュニティ・スクールだけでなく地域をいかに盛り上げていくことが大切かよくわかった。やってみたいことが次々と見付き、とてもワクワクしている。
- ・小中学校の先生方と話す機会は少ないので、熟議の際の情報交換は有意義であった。
- ・先生方の発想の豊かさに驚いた。このアイデアをぜひ現場に活かしていきたい。
- ・参加者の皆さんが魅力ある学校づくりに対して、とても意欲的であると感じ、そういう場に参加できたことに感謝する思いである。

■研修講座 I について

- ・日頃考えることのない視点で現場の教育活動を見直すことができた。
- ・新しく知ることが多く、大変学ぶことが多かった。スクールリーダーとしてのやる気と元気が出てきた。
- ・スクールリーダーとしての自覚をもって職務に当たるべきだと強く感じた。
- ・人材育成や学力向上等、本日学んだことを実行することが、役目であると思っている。
- ・演習は勤務地や校種が様々だったので、情報交換の場にもなり、大変有意義であった。多様で素晴らしい考えを知ることができた。

研修講座Ⅱ

1 目的

- (1) 学校組織マネジメントの概要について理解する。
- (2) 学校の現状分析、学校経営ビジョンの展開方法について理解する。

2 期日 平成27年9月26日(土) 10:00~16:30

3 内容

- (1) 講義：学校組織マネジメントの概要
 - (2) 講義・演習：SWOT分析、我が校のビジョンの展開
- ※ テキスト「学校組織マネジメント研修」兵庫教育大学浅野良一教授
昨年度は「ビジョンづくり」が中心であったが、今年度は「ビジョンの展開」を中心に演習を実施

資料目次

- 1 学校組織マネジメントの着眼点
- 2 学校のビジョンづくり
- 3 学校のビジョンの展開
- 4 学校の組織づくり
- 5 学校環境の分析
- 6 研修講座使用ワークシート

4 講師

東部会場：兵庫教育大学教職大学院 准教授 大野 裕己

県央部会場：京都教育大学大学院 教授 竺沙 知章

西部会場：兵庫教育大学教職大学院 教授 浅野 良一



東部会場



県央部会場



西部会場

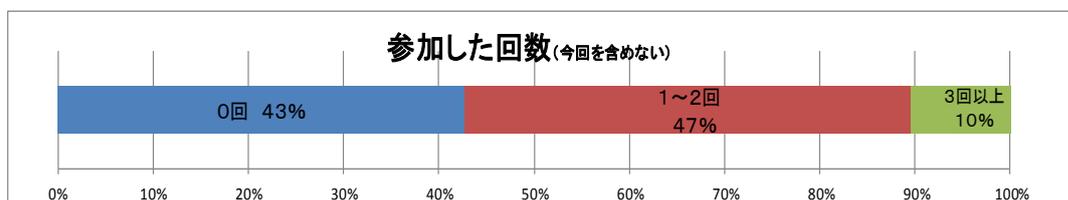


■研修講座Ⅱについて

- ・ 学校組織期マネジメントの理論と SWOT 分析について講義していただき、大変充実した研修となった。学校というものをこのような視点から考えたことがなく、大変参考になった。
- ・ 学校を変化させる手の打ちどころを明確に示していただき、改めて組織全体を見ることの大切さを認識することができた。環境の変化に対応するために学校も、自分自身も戦略的考えをもって変わり続けなければならないと思った。
- ・ 大変具体的でわかりやすい講義だった。自分自身が中核になるという自覚をもち、学校活性化の一助に貢献したいと感じた。
- ・ 学校組織マネジメントに関する研修は何度か受講したが、そのたびに新たな気づきがあり理解の深まりを感じる。時間があっという間に過ぎた。学校での役割が重くなってきた今日、改めて勉強する機会がもててよかった。

■研修講座アンケートから（回答数 307 人）

今回のような SWOT 分析の手法を活用する研修にこれまで参加されたことがありますか。



研修講座Ⅲ

1 目的

- (1) 学校の現状分析に関する協議を通して、スクールリーダーとしての役割を考える。
- (2) 学校運営に関する講義、協議を通して、スクールリーダーとしての意欲を高める。

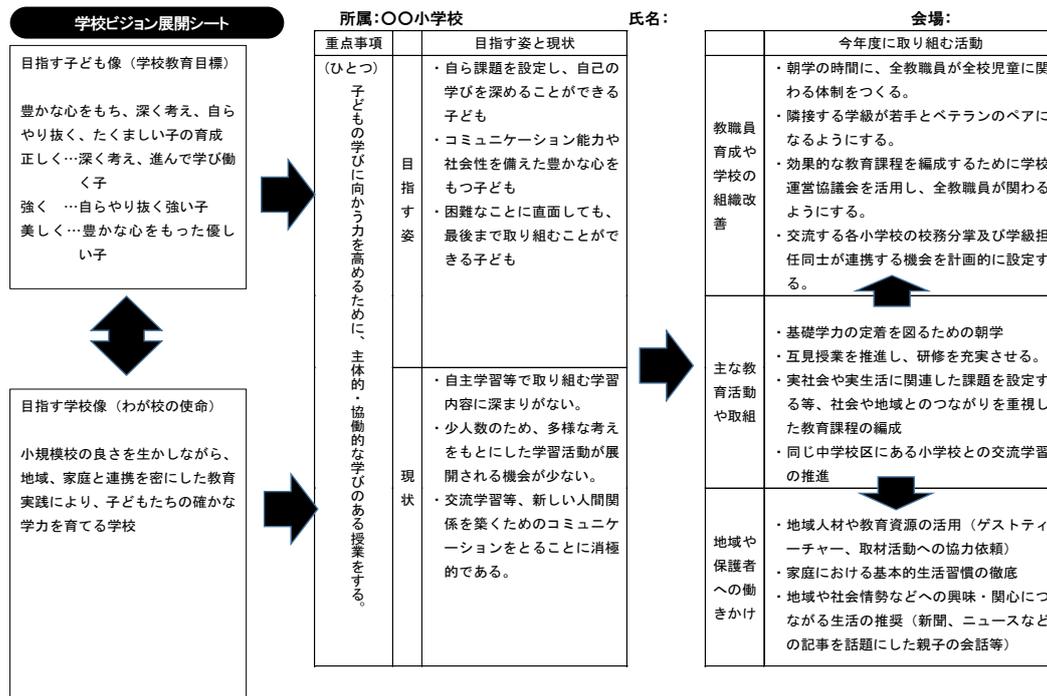
2 期日 平成27年10月24日(土) 10:00~16:30

3 内容

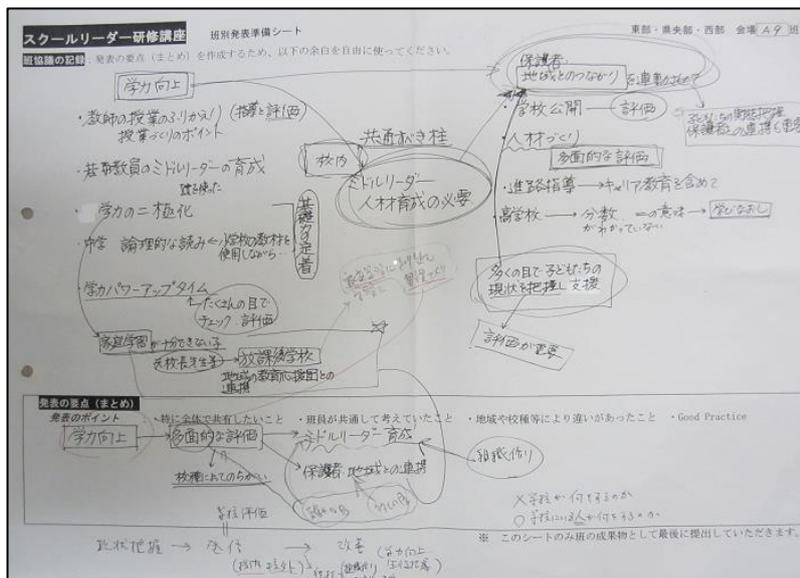
- (1) 協議：学校の現状分析とスクールリーダーの役割

前回講座で学んだことを活かして作成した「学校ビジョン展開シート」を持ち寄り協議
 ※ファシリテーター…兵庫教育大学派遣者・OB

参考 受講者が作成した「学校ビジョン展開シート」の一例



シートを持ち寄っての協議風景



- (2) 講義「特色ある学校づくりと組織的な学校運営」
組織的な学校運営を進めている校長による講義

【講師】

東部会場：田布施町立東田布施小学校 校長 河村 隆

県央部会場：防府市立新田小学校 校長 溝部 幸絵

西部会場：山陽小野田市立小野田中学校 校長 横内 淳



- (3) 講義・協議「組織的な学校運営におけるスクールリーダーの役割と魅力」

本年度の小中高の新任教頭（昨年度スクールリーダー研修受講者）による実践発表及び協議

【講師】

東部会場：小学校3部会・中学校2部会

県央部会場：小学校3部会・中学校2部会・高等学校1部会

西部会場：小学校3部会・中学校2部会



- (4) 研修の振り返り

■演習「学校の現状分析とスクールリーダーの役割」について

- ・持参した学校ビジョン展開シートをもとに校種の異なる学校の先生方と協議したことは、意義深かった。同じ課題を抱えていることもわかり、小中高特の連携を意識することの大切さを感じた。
- ・「学校ビジョン展開シート」を本校の教員の意見等様々な情報をもとに作成したが、本演習で他地域、他校種の先生方の説明を聞くことでさらに深まった。学校組織マネジメントの「手の打ちどころ」の視点が増えた。
- ・現状を明確に分析して、阻害する要因(外的・内的)を解決するための具体的な手立てを常に考えながら、教育活動に取り組んでいくことの大切さを学んだ。

■講義「特色ある学校づくりと組織的な学校運営」について

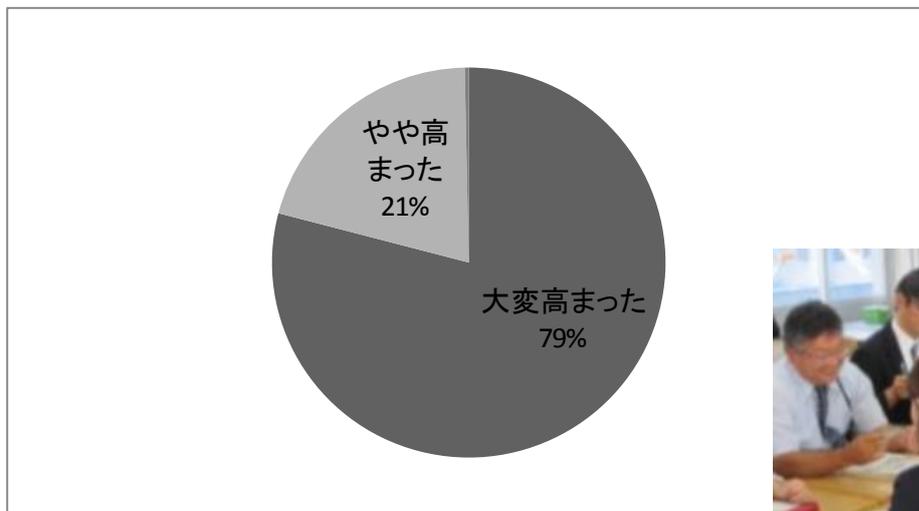
- ・学校のため、地域のため、子どものために熱い思いで学校運営されている校長先生の姿に感動した。しっかりとしたビジョンと情熱をもって行動に移していきたい。
- ・学校のリーダーとして教職員や児童への働きかけ、地域との連携の仕方について、体験をもとに具体的にユーモアを交えながら話をしていただき、スクールリーダーとしての考え方や在り方が理解できた。
- ・スクールリーダーの役割の重要性について改めて考えさせられた。若手の育成のために自分のできることを即実践していこうと思う。

■講義・協議「組織的な学校運営におけるスクールリーダーの役割と魅力」について

- ・スクールリーダーとして学校運営に携わる自らの姿をこれまで全くイメージしていなかった。しかし、新任教頭先生の話の伺い、輝いていらっしゃる事がとても印象に残り、「学校をマネジメントすること」の楽しさ、充実感を感じ、同じ女性ということもあり、憧れの気持ちも覚えた。
- ・新任で教頭職に就かれた生の声を伺い、具体的な役割をイメージでき、その責任の重みとともに魅力を再認識することができた。昨年この研修を受講された教頭先生「今思うと必要な研修でした。」という言葉に重みを感じた。この研修を生かし、さらに努力して参りたい。
- ・経験をもとに話をされているので、将来の自分の立場を考えながら話を聞くことができた。
- ・教頭としての業務の話聞きながら、大変であると同時にやりがいがある魅力ある仕事であると感じた。スクールリーダーとして、教職員とのコミュニケーションをしっかりとったり、学校の課題解決のための取組を教職員の意見を取り入れながら工夫したりしていきたい。

■研修講座アンケートから(回答数 238 人)

現職校長・教頭による講義・協議により、スクールリーダーや管理職として、学校運営を進めることのやりがいや魅力が高まりましたか。



研修講座Ⅳ

1 目的

- (1) 学校のリスクマネジメントについて理解を深める。
- (2) 学校のメンタルヘルスマネジメントについて理解を深める。

2 期日 平成27年11月14日(土) 10:00~16:30

3 内容・講師 (1)(2)ともに今年度新たに実施した内容

(1) 講義・演習「学校のリスクマネジメント」

【講師】 東部会場 : 山口県教育庁学校安全・体育課 主査 松本 剛
県央部会場 : 山口県教育庁学校安全・体育課 教育調整監 大塚 泰二
西部会場 : 山口県教育庁学校安全・体育課 主幹 秋川 茂

【講義】

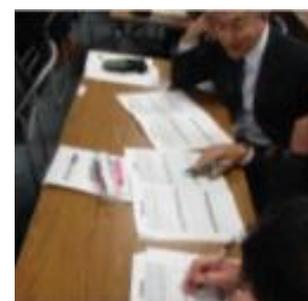
- ① 山口県学校安全推進計画
- ② 学校安全推進プログラム
- ③ 学校のリスクマネジメント
 - ・学校の危機とは
 - ・危機管理の3段階
「リスクマネジメント・クライシスマネジメント・再発防止」
 - ・危機の未然防止
 - ・学校危機の対応



【演習】学校における危機対応

「個人で初期対応を考える」⇒「グループで初動を考える」
⇒「事案の解決を考える」⇒講師による解説

- ① 不審者侵入(含 附属池田小の事例)
- ② 食物アレルギー事故(含 調布市学校児童死亡事故の事例)
- ③ いじめ(含 岩手県いじめ自殺事件)



- ④ 児童虐待
- ⑤ 爆破予告

(2) 講義・演習「学校のメンタルヘルスマネジメント」

【講師】 東部会場：山口県教育庁教職員課 教育調整監 西村 和彦
 県央部会場：山口大学 教授 静屋 智
 西部会場：山口県教育庁義務教育課 主査 宮内 茂則

【講義】

- ① メンタルヘルスに関する現状(公立学校教職員の人事行政状況調査から)
- ② 山口県教育委員会が実施しているメンタルヘルス対策

【講義・演習】 コーチング



■講義・演習「学校のリスクマネジメント」について

- ・リスクマネジメントの重要性について再認識するとともに、常日頃からの準備の大切さを痛感した。演習を通して、様々な危機に対する対応を具体的に考えることができた。これらの内容は全教職員が理解しておくべきだと感じた。
- ・学校安全に係る計画・マニュアル等が形骸化することなく、必ずいざというときに機能するように、日頃から小さな事案においてもチーム体制を整え、対応していくべきだと思った。避難訓練のブラインド方式の導入や保護者への引き渡し訓練について早急に取り組んでいくつもりである。
- ・危機対応について具体的な事例をもとに演習を交えてお話いただいたので大変わかりやすかった。話を聞くだけでなく、考える場面や他の方と話し合う場面があったので、自分の考えと解答例を比較しながらより深く学ぶことができた。

■講義・演習「学校のメンタルヘルスマネジメント」について

- ・コーチングの演習が大変勉強になった。明日からでも取り入れて教職員の人材育成、働きやすい職場づくりに教職員のひとりとして貢献していきたい。
- ・コーチングの講義は個人的にも興味がある分野でもあり、大変参考になった。理論的なお話のみにはならず、実践的な内容で、日々の学校生活の中で、実際に意識して活用してみることが大切であると思った。
- ・今まではメンタルヘルスといえば、個人の問題としか捉えていなかったが、教職員一人ひとりの働きかけで職場の雰囲気が大きく変わり、メンタルの部分をサポートすることができることがわかった。働きやすい職場づくりに貢献していきたいし、そうすることで自分自身の人間性を高めていきたいと思う。

研修講座Ⅴ（ニューリーダー研修講座）

1 目的

管理職としての基礎的な資質能力を高めるとともに、その職責の重要性に関する理解を一層深め、本県のニューリーダーとして学校を牽引する意欲を高める。

2 期日 平成28年3月5日（土） 10:00～16:30

3 対象者

- ・平成28年度教頭候補者名簿登載者
- ・平成25・26年度に部主事に任命された者



4 内容

(1) 講話「新任管理職に期待すること」 【講師】 山口県教育庁教育次長 廣川 晋

(2) 講義「管理職のリーダーシップについて」

【講師】 兵庫教育大学 教授 日渡 円

(3) 講義・演習「管理職のリーダーシップについて」

【講師】 兵庫教育大学 教授 日渡 円

兵庫教育大学 教授 小西 哲也

三重県教育委員会 主幹兼研修主事（班長代理）西井 直子

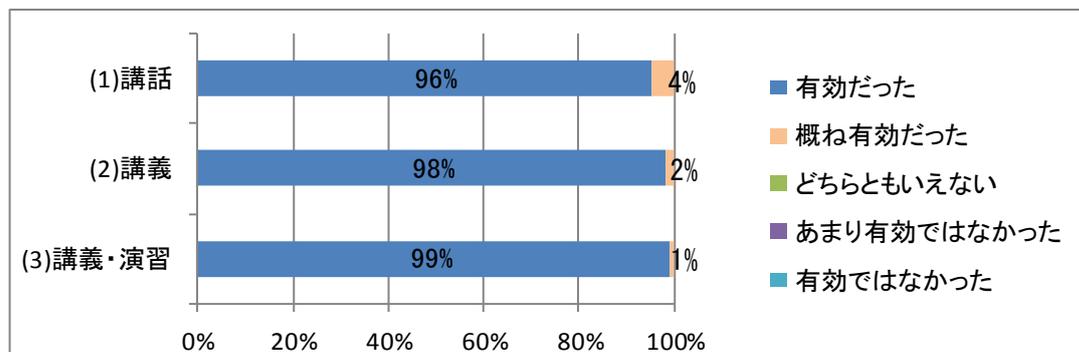
下関市教育委員会 教育研修室長 澄川忠男

- ・4つの教室に分かれ、校種混合の5～6人のグループで演習
- ・架空の学校を舞台に受講者はそれぞれその学校の校長として着任したという設定で、「あなたはまず何に取り組むか」グループで協議。
- ・情報収集の在り方を中心に演習を行い、対課題面の力（マネジメント）を伸ばしていく。



■ 研修講座アンケートから

各研修は自身の資質能力の向上にどの程度有効だと思いますか。



いずれの講義についても、受講者全員が「有効だった又は概ね有効だった」と回答しており、受講者の満足度は高く、ニーズに合った内容であったと評価している。

■講話「新任管理職に期待すること」

- ・「授業を通じて子どもの成長を語れる学校であってほしい。」というお言葉が印象に残った。子どもの目線に立ち、「子どもにとってどうなのか」という視点で判断・改善していくことで、真の学力や課題解決力も育つのだと改めて思った。また、「職員室のリーダーとして明朗であり、しっかりと理念を語るように。」というお言葉に、元気と勇気をいただいた思いがした。
- ・今までと視点や立場が違ってくることを改めて自覚する良い機会であった。先生方の心に火を付けて動かしていける人間に成長していきたいと思う。

■講義「管理職のリーダーシップについて」

- 「改革期の管理職である」という自覚をしっかりとつことの重要性を認識することができた。これまで、学校組織マネジメントとして、まず目標を定め具体的な方策を行っていくことの重要性について様々な研修会を通してわかっていたつもりであったが、日渡教授のお話を伺い、自分自身の認識が如何に表面的であったかということに改めて気づかされた。中教審答申の重み、自分の言葉で語ることの意味について学ぶことができた。

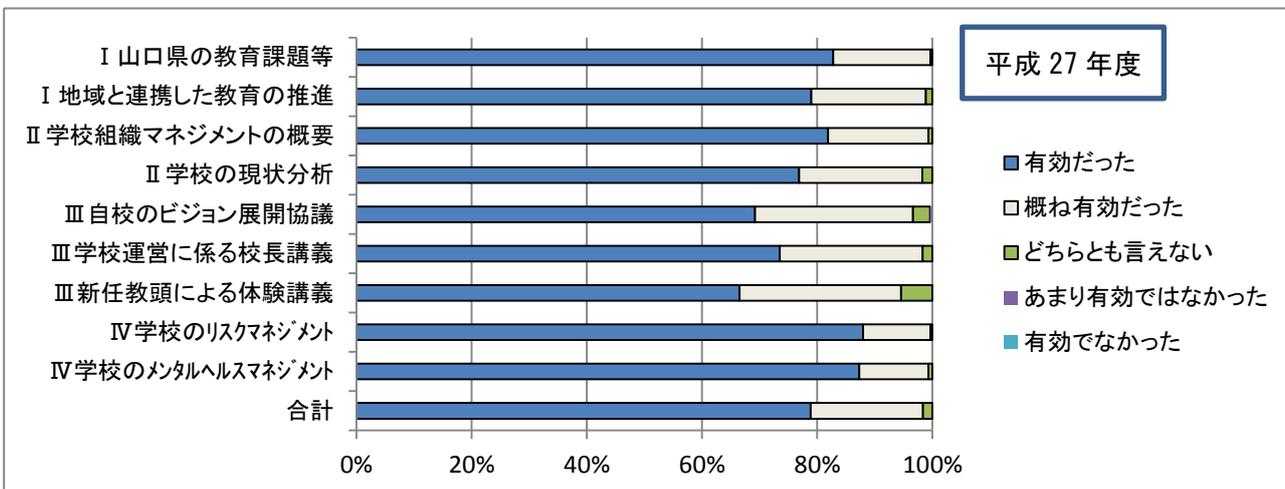
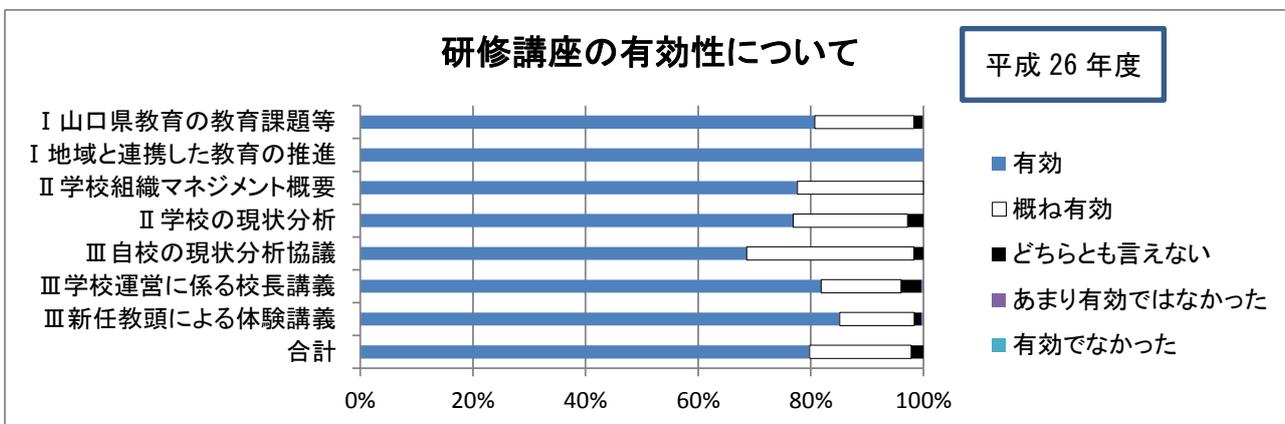
■講義・演習「管理職のリーダーシップについて」

- 演習を通して、自分の知識と経験から偏った領域内での情報収集を行うことの危険性を実感することができた。自らの特性をまず把握し、客観性と妥当性を伴う課題対応力を身に付けたいと思う。グループでの話し合いの際、自分では気づけなかった視点は今後の大きな財産となった。
- 一つの事案をもとにグループで協議することで、幅広い観点からの情報を収集することができた。その中で、自分の収集する情報には偏りがあることを痛感した。リーダーとして自分の思いを伝え、方向を示す際、現状をしっかりと把握し、ありがたい姿を設定した上で、十分な情報をもとに、チームで対応していきたい。

(3) 研修講座の評価

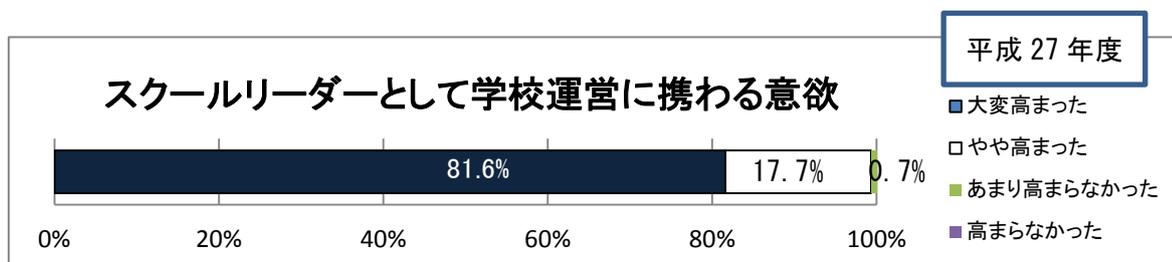
スクールリーダー研修講座についての受講者アンケートから(平成27年11月実施 回答者数323人)

■今回の各研修講座は、自身の資質向上にどの程度有効であったと思いますか。



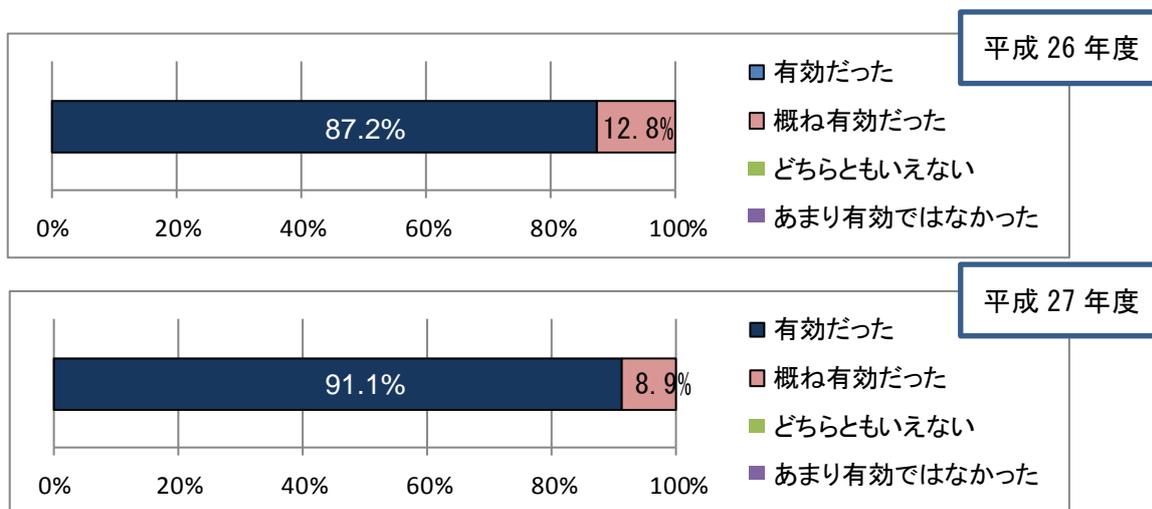
- 研修講座終了時のアンケートでは、「本研修講座が有効又は概ね有効だった」とする者が昨年度同様98%を超え、講座の有効性が確認された。今年度新たに実施したリスクマネジメント及びメンタルヘルスマネジメントについても、肯定的評価が99%を超えており、受講者のニーズに応えることができたと評価している。

■本研修講座を受講して、スクールリーダーとして学校運営に携わる意欲が高まりましたか。



- 今年度は、昨年度受講していない者を優先とし、管理職選考試験を受験する者だけでなく、幅広く中堅教員の受講者を募集した。研修講座後のアンケートでは、99.3%の受講者が「スクールリーダーとして学校運営に携わる意欲が高まった」と回答しており、管理職選考試験を受験する者のみならず、将来、管理職となることが期待される中堅教員においても、学校運営について主体的に学ぶよい機会となり、その意識を高めることができた。

■スクールリーダー研修講座は、管理職として着任するあなたにとってどの程度有効でしたか。



- 教頭選考試験の名簿登載者を対象としたニューリーダー研修講座後のアンケートでは、受講者全員が「管理職として着任する自分にとって、スクールリーダー研修講座は有効であった」と肯定的に回答しており、管理職になる前のこの時期に学校運営に関する資質能力を伸ばす本研修を受講することは、得るものが多く、大変意義があるものであるということが検証された。

■本研修講座の受講は、あなた自身の資質能力の向上にどのように役立ったと考えますか。

- リーダーとして学校運営をしていくための意欲と自覚が高まるとともに、受講前より視野が広がった。そして、「こういう学校をつくってみたい」という具体的なイメージがわいてきた。(小学校教諭)
- 学校組織マネジメントの意識をもつことができたことが、大変大きいことだと感じている。考えていかなければならないことは多岐に渡っているが、目の前の子どもたちのため、教職員のため、山口県教育推進のため、より意識を高めて職務にあたっていきたい。(小学校教諭)
- 日頃は授業をはじめとする学習指導にばかり目が行きがちだが、県の教育施策や学校運営に関することを知ることができ、今まであまり見えていなかったところにも目が行くようになった。(小学校教諭)
- これまでは教務主任としてのみの立場で物事を考えていたが、管理職としてどのように考えて組織を動かさなければいけないか考えるようになった。組織を動かすという視点になったのは、本研修のおかげである。山口県の取組もしっかり勉強するようになり、自分自身の資質向上に大変役立った。(小学校教諭)
- 本講座を受講したことで、これまで自分では考えてこなかった学校全体を見渡し、組織を見直すという経験をした。そのことによって、今の業務についての見方の視野を広げることができたとし、少しずつではあるが、校内の先生方、特に若手の人に対して、前向きなかかわり方をすることができるようになってきたと思う。今後も広い視野で学校が活性化するよう努力していきたいと思う。(小学校教諭)
- 演習が多く設定されており、大変楽しく受講できた。今回学んだ多くの手法を授業にも応用できそうである。(中学校教諭)
- 自分の任された分掌の役割だけでなく、学校というチームの一員としてしっかりと参画する意識をもたなくてはならないことを実感した。リスクマネジメントやメンタルヘルスに対する対応など日頃の業務の見直しやスクールリーダーとしての役割について不勉強な部分に改めて気づくことができた。(中学校教諭)
- この講座受講以降、自身の授業に対する姿勢から、先生方、生徒への関わり方等、大きな変化があったように思う。経験値で物事を進めていた自分を反省し、しっかりとした知識を後ろ盾とした動きをつくることができるようになった。(中学校教諭)
- 学校組織マネジメントの研修は、大変役に立つ内容であった。研修後実際に本校で取り入れているものもあり、今後の職務にも生かせる内容であった。(小学校養護教諭)
- 学校組織マネジメントの研修において、本校のよさ、強み、特色をじっくりと考えることができた。後、学校において、その強みをさらに高めていくことができるよう心がけてきた。(特別支援学校部主事)
- これまで現場中心だったので、国の政策、県の施策などつながりをもって知ることができ、その上で教育活動が展開されていることを実感することができた。また、組織マネジメントを学び、管理職として必要な資質や能力を理解でき、大変有意義であった。(高等学校教諭)
- 小中学校における取組や小中学校の先生方と意見を交換できたことが大変役に立った。小中での取組を基本に高校で求められている力などを見つけることができるよい機会となった。(高等学校教諭)
- 管理職に求められる資質能力について分野ごとに学べたことは大きな財産となっている。また、研修に参加することで多くの先生方と意見交流、協議をすることができ、自分自身が考えていることがはっきりすることもあり、また、新たな視点をもつことができたことも大きな成果となった。(事務局職員)

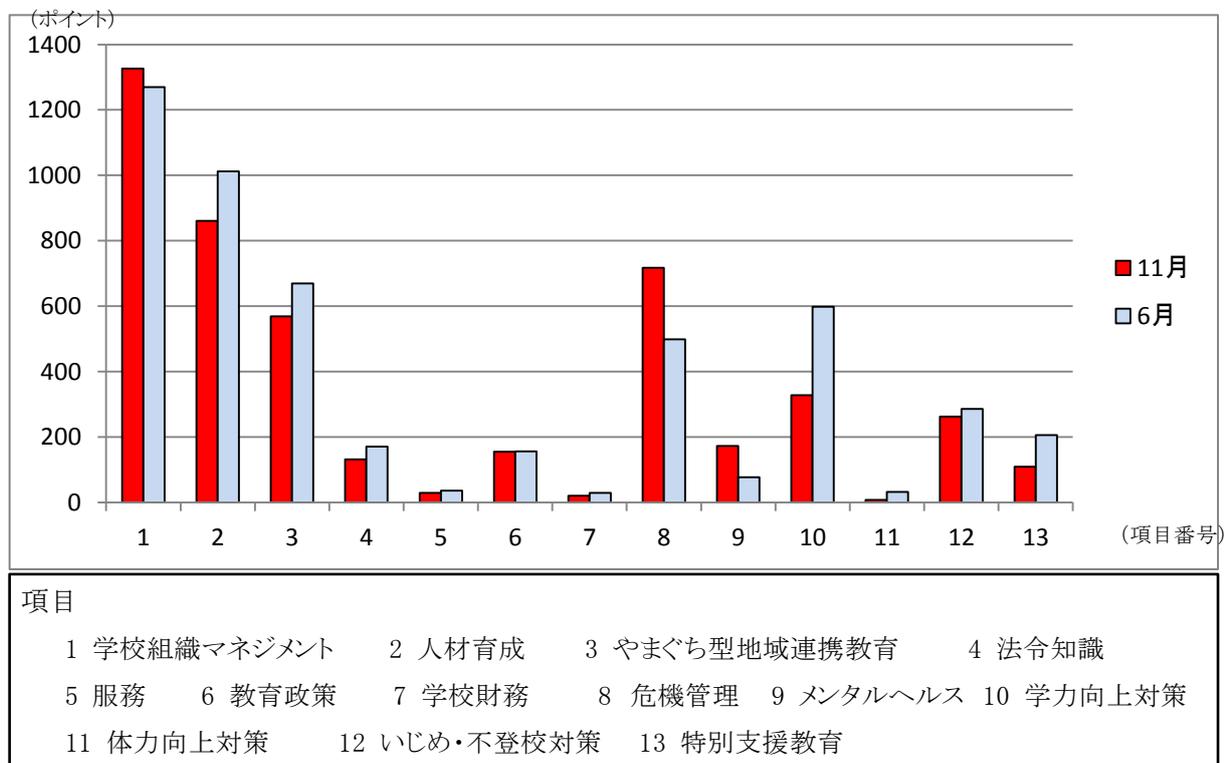
【講座内容に関するニーズについて】

■ あなたにとって、スクールリーダーとして学校を牽引していくにあたり、必要性が高いと思われるものはどれですか。

※必要性が高いと感じている項目を第1位から第5位まで選び回答したものをポイント化。

(第1位5ポイント、第2位4ポイント、第3位3ポイント、第4位2ポイント、第5位1ポイント) × (人数)

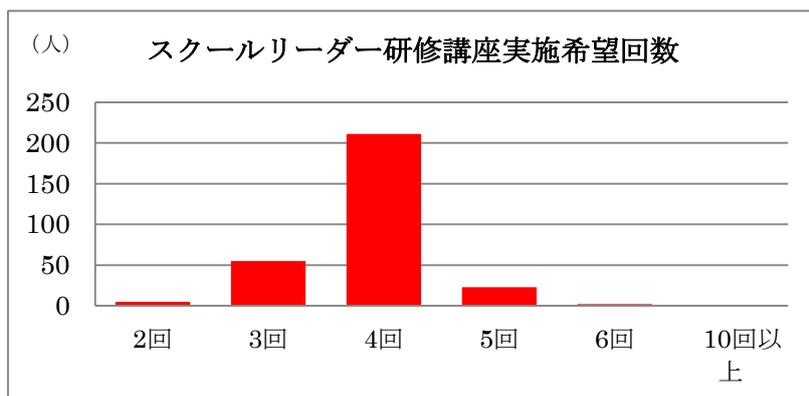
平成27年6月回答者数338人 平成27年11月回答者数323人



- 学校組織マネジメント、人材育成、地域連携(やまぐち型地域連携教育)、危機管理、学力向上対策のニーズが高い。本研修講座で重視している学校組織マネジメントのポイントが最も高く、受講者のニーズと合致している。
- 11月アンケート結果では、6月と比べ「危機管理」の項目のポイントが高くなっている。「学校リスクマネジメント」については今年度新たに実施した講座であり、当講座の受講により、危機管理の意識が高まったことが窺える。

【講座実施回数について】

■ 年間に何回程度が適当だと思いますか。



- ※ 平成27年11月実施
- ※ 回答者数323人
- ※ ニューリーダー研修(1回)を含まず。

(4) 研修講座についての考察

1 対象となる学校種

対象は、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の区別なく、全ての校種を対象として実施した。研修においても、校種別のグループ編集はせず、混合のグループにより協議をしたことで、各研修講座の感想にもあるように、より多様な意見が出された。今後の校種間連携の推進にも寄与すると考える。

2 対象者及び選抜方法

今年度は、募集定数を増やす（400人→450人）とともに、定数を上回る場合は昨年度受講していない者を優先して募集した。受講申込者数は391人であり、申込者は全員受講することができた。教頭選考試験受験者以外の中堅教員にも幅広く受講を案内したため、昨年度は受講者の82%が教頭選考試験受験者であったが、その割合は66%となり、受講者の属性の拡大が図られた。

また、いずれも「学校運営に関する資質能力を身に付けたいと考えている者」であり、研修意欲は非常に高く、管理職選考試験受験者との協同的な学びにより、管理職選考試験とは直接かかわりのない者にとっても充実した研修となった。「今回学んだことを、早速、学校で活用したい。」という感想も多く見られ、研修開始時期を早めたことも相まって、研修内容の学校現場への年度内の還元を図ることができた。また、スクールリーダーとしての活躍しようという意欲を高めることができた。

3 実施規模

県央部の山口大会会場は収容人数に余裕があるが、東部、西部においては、会場規模からすると今年度の100人程度が適当であった。平均参加者数は、県東部会場約111人、県央部会場約131人、県西部会場約90人であり、各会場とも円滑に運営することのできる人数であった。

東部・西部125人、県央部200人という今年度の募集定員は、会場の確保、運営面からは、東部・西部100人、県央部150人程度の規模が適当であると考えられる。

4 実施時期

研修講座の募集時期を早め、第1回目の研修講座を6月に実施した(昨年度は9月スタート)。第1回目は「本県の教育課題と施策」に関する研修であり、この早い時期に詳細な説明を県教委から直接受け、各施策の本質的な理解を図ることは、受講者のスクールリーダーとしての具体的な取組の推進、学校の課題解決に向けた意識の高揚において有効であった。

5 研修日数

今年度は、受講希望者全員を対象とした研修講座については本年度は新たな内容を実施するため研修講座を1回増やし、4回実施した。この実施回数は、受講者のニーズとも合致しており、ニューリーダー研修講座を含め、全5回の実施が適当であると考えられる。

6 研修内容

- ・ 理論と実践を合わせた研修とすることで、理解が深まった。

- ・ これまで、中堅層に対して県教委の施策を説明する機会は少なかった。教育振興計画等の施策体系を理解した上で、日常の教育活動を進めることの重要性を受講者が感じることができた。
- ・ 本研修講座においては、「学校組織マネジメント」を一つの柱として考えており、研修講座Ⅱでは、SWOT分析について学ぶ講義・演習を実施した。さらに、研修後自校に戻って実際に、「学校ビジョンの展開」シートを作成し、研修講座Ⅲでそのシートを持ち寄り、協議を行った。研修講座での学びを、自校の改善に生かし、さらにその成果を次の研修につなげる研修方法は非常に有効である。
- ・ 新任教頭による実践発表は、管理職の魅力・やりがいを伝え、意欲の高揚を図るには非常に有効な方法である。今年度の講師は、昨年度研修講座を受講して管理職となった者が務めたが、受講者にとっては、将来の自分の姿を重ね合わせて話を聞くことができるとともに、講師にとっても初心に戻り、自らの実践を振り返るよい機会となった。前年度を受講者が今年度の講師を務めるというこの循環型の研修は、双方にとって大きなメリットがあった。
- ・ 今年度、新たに実施した「学校リスクマネジメント」及び「学校メンタルヘルスマネジメント」については、受講者のニーズとも合致しており、これらについての理解を深めるとともに、スクールリーダーとして積極的に取り組む意識を高めることができた。
- ・ ニューリーダー研修講座では、今年度新たに、兵庫教育大学の日渡教授が主宰する研究会が開発したプログラムを試行実施した。実施後の受講者の感想からは、講義・演習をとおして、対課題面の力を伸ばしていく本講座により、新たな視点から自分自身のマネジメント力を見つめ直すことができたことが窺える。
- ・ 「学校財務」「喫緊の教育課題」等、スクールリーダーにとって必要な内容は残されているが、日程や受講者の希望実施回数等を考慮すると、今年度以上、実施回数を増やすことは難しい。計画的にこれらを学んでいくことができるよう、やまぐち総合教育支援センターの研修等をさらに活用していくことが重要である。

7 実施体制

研修講座は本県の実情に合わせ、県内の3会場で実施した。県東部及び県西部の会場の確保等においては、市町教育委員会の協力を得た。この実施方法では、研修内容を各会場で統一していくなどの課題はあるが、本研修講座は全て土曜日開催の自主研修として実施していることもあり、受講者の負担の軽減からも非常に有効な方法である。今年度受講者の97%が、来年度も同講座が実施されるならば、本年度と同様の地域別での実施を希望している。

■ 2 スクールリーダー育成に向けた大学との連携の在り方の研究

スクールリーダー研修講座の企画・運営を通じた県教委・山口大学・兵庫教育大学教職大学院の連携の強化

(1) スクールリーダー研修講座のプログラム作成・運営における連携

【山口県教員養成等検討協議会提言(平成25年度)から】

中堅教員の資質能力の向上、管理職の育成に関しては、山口大学に設置予定の教職大学院を活用して育成する取組について、次のように提言されている。

- ・ 教員の大量退職により、これまで学校の中核を担っていた多くのベテラン教員や管理職が退職し、教職経験の比較的浅い若手教員の増加が見込まれることから、若手教員の指導力や中堅・ベテラン教員のマネジメント能力を育成・向上させる仕組みとともに、管理職として将来学校運営を担う人材を育成する機能が求められる。
- ・ 県教育委員会の研修体系においては、職務別研修後の長い教職生活の間が空白になっているという指摘もある。
- ・ 管理職としての資質能力を育成する新たな学びとして、学校組織マネジメントに関する内容、法規や教育行財政学、危機管理などに関する教育内容を充実させることが望ましい。
- ・ 教職大学院には、若手教員の指導力や中堅・ベテラン教員のマネジメント能力を育成・向上させる機能や、管理職として将来学校運営を担う人材を育成する機能が求められる。また、山口県の教育課題を研究し、学校現場を支援する機能も必要である。

【平成26年度】

山口県教員養成等検討協議会の提言(平成25年度)、山口県人材育成基本方針をもとに、管理職として必要な資質能力を明確にし、兵庫教育大学教職大学院派遣者部会において、研修プログラムの素案を作成。

さらに、素案を兵庫教育大学派遣者OB部会で協議を行い、原案作成部会で最終検討をして原案を作成。

【平成27年度】

- ・ スクールリーダー推進委員会(推進組織を一本化)

日 時:平成27年6月10日(水)

場 所:山口県教育庁

出席者:山口大学4人 山口県教委:2人

内 容:本事業の説明、研修講座の内容、スクールリーダー研修の実施運営方法等

【平成27年度スクールリーダー研修講座における連携の実際】

- 研修講座Ⅱでは、兵庫教育大学教職大学院の教授等を講師として、「学校組織マネジメント」の講義・演習を実施。
- 兵庫教育大学教職大学院派遣者及び派遣者OBが、スクールリーダー研修講座の運営委員を務めるとともに、研修講座Ⅲでは講師、ファシリテーターとして研修を受けもつ。
- 兵庫教育大学教職大学院派遣者及び派遣者OBが、スクールリーダー研修講座の運営委員を務めるとともに、研修講座Ⅲでは講師、ファシリテーターとして研修を受けもつ。
- 平成28年4月に教職大学院が設置させる山口大学と県教育委員会との協働体制の充実を図るため、研修講座の3会場のうちの県央部会場を山口大学に固定し、5回の研修講座を山口大学で実施。
- ニューリーダー研修講座(第5回講座)の講師を兵庫教育大学教授を中心としたスタッフが務め、講義・演習を実施。
- 山口大学の教授は全ての研修講座に参画。研修講座Ⅲではファシリテーターとして、また、研修講座Ⅳでは「メンタルヘルスマネジメント」の講師を担当。

(2) 山口県教員養成等検討協議会

□趣旨 教員養成課程を有する県内全ての大学・短期大学と学校関係者による検討協議会。教育委員会・学校・大学等が一体となって教員の養成や育成に向けた取組を総合的に推進する。

□委員 本県教育の担い手である教員の養成や採用及び現職教員の育成などに向けて、大学等と連携した取組を進めるため、養成課程を有する県内すべての大学等から推薦された委員、山口県が継続的に現職教員を派遣している兵庫教育大学からの委員、市町教育委員会及び各校種を代表する校長を委員として設置。

< 県内大学委員 >

山口大学、山口県立大学、下関市立大学、徳山大学、山口学芸大学・山口芸術短期大学、宇部フロンティア大学、梅光学院大学、東亜大学、山口東京理科大学、至誠館大学、山口短期大学

□開催日等【平成27年度】

・第1回

日 時:平成27年6月16日(火)

場 所:山口県教育庁

出席者:大学関係委員 11名、市町教委・学校関係委員 4名

主な協議事項等

- ①報 告 山口県教員養成等検討協議会「報告書」の概要について
- ②報 告 山口大学教職大学院設置に向けた状況について
- ③協 議 養成・採用段階の取組の充実について
- ④協 議 現職教員の育成に向けた取組の充実について
管理職を養成する仕組みの確立
- ⑤その他 高校生のための教職セミナーについて
第2回会議について

・第2回

日 時:平成27年11月10日(火) 13:30～15:30

場 所:教育委員会室

出席者:大学関係委員 9名 市町教委・学校関係委員 3名

主な協議事項等

- ①報 告 山口県教師力向上プログラムの実施状況について
- ②報 告 山口大学教職大学院設置に向けた状況について
- ③協 議 実践的指導力を有する教員養成のための各大学の取組について
- ④協 議 教員をめざす学生の学校体験制度について
- ⑤その他 教職志望学生や現職教員の意識調査の実施について
山口県教育関係人材データベースの改訂について
第3回会議について

・第3回

日 時:平成28年3月14日(月)

場 所:山口県教育庁

出席者:大学関係委員 11名、市町教委・学校関係委員3名

主な協議事項等

- ①報 告 養成・採用・研修の充実にに向けた取組状況について
 - ・「教師力向上プログラム」について
 - ・「若手人材育成 1,000 日プラン」について
 - ・「スクールリーダー研修講座」について
- ②報 告 教員志望者・初任者のニーズ調査結果報告
- ③報 告 山口大学教職大学院設置に向けた状況について
- ④協 議 実践的指導力を有する教員養成のための各大学の取組について
- ⑤協 議 中教審答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について ～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」への対応について
- ⑥その他 来年度の取組予定について

(3) 事業成果と課題

教員養成等検討協議会の協議を踏まえ、山口大学等の協力のもと、スクールリーダーを育成する研修を実施する中で、次のような成果が見られた。

- ・ 山口大学等との連携体制が構築され、山口県の現職教員のスクールリーダーとしての資質能力向上に向けた取組を推進することができた。
- ・ 兵庫教育大学教職大学院派遣者を活用した取組が推進され、大学院研修の還元を継続的に行うことができる素地が築かれた。
- ・ 現職研修の改革として大学、教職大学院との連携の重要性は、平成27年12月の中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」の中でも示されているところである。本県においては、平成28年度に山口大学教職大学院が開設されるもあり、今後一層、県内大学との連携を深めながら、講座の実施方法等についても、教員養成等検討協議会にて検討していく必要がある。

■ 3 やまぐち総合教育支援センターの研修を活用したスクールリーダー育成の在り方の研究

(1) スクールリーダー育成に向けた「組織力向上研修」の新設

やまぐち総合教育支援センターの専門研修の中に、中堅教員を対象に、学校運営に必要な資質能力を身に付ける「組織力向上研修」を今年度新設し、スクールリーダーの育成を図った。

【研修内容】

- 学校組織マネジメント
- OJT推進のための組織マネジメント
- 学校におけるリスクマネジメント
- 学校におけるコーチング
- 学力向上に向けた授業づくり
- 学校づくり(カリキュラム・マネジメント入門)
- 校内研修の活性化を図る
- 組織的に取り組むいじめ対応

【研修講座アンケートから】

1 定員及び受講者数（職務別研修受講者含む）

NO	講座名	日数	定員	受講者数	講座充足率
1	幼小中高特 学校組織マネジメント	1	24	28	117%
2	小中高特 OJT推進のための組織マネジメント	1	24	27	113%
3	幼小中高特 学校におけるリスクマネジメント	1	30	30	100%
4	小中高特 学校におけるコーチング	1	40	36	90%
5	小中高特 学力向上に向けた授業づくり・学校づくり (カリキュラム・マネジメント入門)	1	30	29	97%
6	小中高特 校内研修の活性化を図る	1	42	39	93%
7	小中高特 組織的に取り組むいじめ対応	1	50	52	104%
計		7	240	241	100%

2 受講者の全体評価（受講者アンケート提出分）

NO	講座名	人数(人)				割合			
		十分に役立つ	役立つ	あまり役立たない	役立たない	十分に役立つ	役立つ	あまり役立たない	役立たない
1	幼小中高特 学校組織マネジメント	24	2	0	0	92%	8%	0%	0%
2	小中高特 OJT推進のための組織マネジメント	23	3	0	0	88%	12%	0%	0%
3	幼小中高特 学校におけるリスクマネジメント※	30	3	0	0	91%	9%	0%	0%
4	小中高特 学校におけるコーチング	34	1	0	0	97%	3%	0%	0%
5	小中高特 学力向上に向けた授業づくり・学校づくり (カリキュラム・マネジメント入門)	23	4	1	0	82%	14%	4%	0%
6	小中高特 校内研修の活性化を図る	26	9	0	0	74%	26%	0%	0%
7	小中高特 組織的に取り組むいじめ対応	44	5	0	0	90%	10%	0%	0%
計		204	27	1	0	88%	12%	0%	0%

※幼稚園・養護教諭10年経験者選択研修受講者を含む。

3 受講者からの振り返り、意見・感想

(1) 学校組織マネジメント

- ・学校組織の中でファシリテーターとなれるようチャレンジしてみたい。
- ・組織におけるミドルリーダーの位置と役割について認識できた。
- ・SWOT分析を実施し、本校の課題、対策を考える時間を確保することができ、大変よかった。
- ・知識としては分かっていたが、実践したことがなかったので勉強になった。

(2) OJT推進のための組織マネジメント

- ・個々で行っていることを人材育成という観点で見直し、組織的に行わなければならないことを実感した。
- ・体系的理論と実践を合せた内容で、とても有意義だった。
- ・本校でのOJTの機会は多くあったと思うが、活用できていないことが分かった。もっと教員間のコミュニケーションを大切にしていきたい。
- ・県の動向・実践例・大学教授の理論と、一連の流れが意識された研修であった。今後の職務に反映していきたい。

(3) 学校におけるリスクマネジメント

- ・危機発生時の心のケアについては、事例を通して、組織として対応していく重要性がよく分かった。
- ・事例発表を通して、危機対応を検証し、次に生かすことの重要性を学んだ。
- ・日頃から危機管理に対する意識や感性を磨いておく必要性を感じた。

(4) 学校におけるコーチング

- ・職場での普段の職員・生徒との関わり方を見直すよい機会となった。
- ・相手のもっている能力を引き出すコーチングの大切さを学ぶことができた。
- ・自分が課題としていることを解決するためにふさわしい講座であった。

- (5) 学力向上に向けた授業づくり・学校づくり（カリキュラム・マネジメント入門）
- ・学力向上のためには、全校で取り組むことができるような仕組みを整えなくてはならないと分かった。
 - ・教員全体の温度差を作らないことが一番大切だと再認識した。
 - ・今回学んだことを生かし、課題解決に向けて取り組んでいきたい。
- (6) 校内研修の活性化を図る
- ・研修主任としての考え方や在り方について、大変勉強になった。
 - ・初めて研修主任となり、どうしてよいか分からない状態だったが、何を意識すればよいかの視点が得られてよかった。
 - ・研究授業を中心とした校内研修について悩んでいたが、「連続させる」「深める」「日常の授業に生かす」ということについて、たくさんのヒントを得ることができた。
 - ・中学校区内の各小学校で狙いを共通して取り組んでいくという考えは、大変参考になった。
- (7) 組織的に取り組むいじめ対応
- ・いじめ問題に関して組織的な取組の重要性を再確認できた。
 - ・自分の学校の取組を見直し、一人ひとりの子どもを大切にすることをきちんと進めていきたい。
 - ・実践に基づいた講義が、とても役に立った。

4 成果及び課題

- ・定員に対する受講者数(充足率)は、いずれも90%以上となっており、受講者のニーズに応じた研修となっている。
- ・組織力向上研修全体で、「この研修が十分に役立つ」と回答した受講者の割合は、88%となっており、受講者の今後の実践につながる内容になっている。
- ・受講後の感想に、組織的な取組の必要性に対する認識とともに今後の実践への意欲が記述されており、組織的な人材育成及び学校の活性化を図る本研修の所期の目的に応じた内容となっている。
- ・組織的な取組について基礎から研修できるよう、外部講師による講義等を設定したが、演習の時間が十分に確保できない講座もあった。外部講師との十分な打合せが必要である。

(2) やまぐち総合教育支援センター研修講座の活用

スクールリーダー研修講座で実施できなかった法令知識に関する内容については、やまぐち総合教育支援センターの講座を紹介し、受講を促した。

法令知識の内容について、スキルアップ研修「基礎から学ぶ教育関係法規研修講座」(平成28年1月実施)を希望者が受講 ⇒スクールリーダ研修講座受講者のうち67人が受講

(3) 事業成果と課題

「組織力向上研修」の実施により、中堅期から計画的に学校組織マネジメント力の育成を図ることができた。

スクールリーダー育成に向けて、本事業を活用したスクールリーダー研修講座の成果を還元することにより、やまぐち総合教育支援センターの研修講座の内容の充実を一層図っていくことが必要である。